

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	52	学校名	茨城県立石岡商業高等学校					課程	全日制		学校長名		木田 智子				
教頭名	赤津 克齊										事務（室）長名		原田 賢二				
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手		3	事務職員	2	技術職員等	3	計	38
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	商業科		37	43	41	34	30	44			119	111	6 クラス				
	情報処理科		24	16	17	18	22	14			52	58	3 クラス				

2 目指す学校像

地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むとともに、社会に有為な調和のとれた人間力の育成に努める。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力の育成 ②社会に有為な調和のとれた人間力の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①商業高校ならではの、役立つ技術・確かな資格を生かした進路希望の実現 ②企業人に必須のビジネスマナー・規範意識に基づくコミュニケーション能力の育成
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①高校から新しく学ぶ商業に興味関心を持って意欲的に学ぶ生徒 ②資格取得、学校行事や部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	授業の工夫改善、ICT 教材の活用等により基礎学力の定着を図ることで、主体的に学習に取り組む態度と、学習習慣の向上を目指している。生徒による授業評価アンケートでは、7 項目（4 点満点）すべてで、平均値 3.5 以上の評価を得た。	主体的に学習に取り組む態度の向上のため、学習場面に応じた ICT 活用を工夫する。基礎学力の定着と、資格取得を可能とする体制づくり、教科連携の組織づくりを推進する。
進路指導	進路は多岐にわたり、生徒の能力・適性に応じた指導を行っている。令和 5 年度卒業生は、進路決定率 100% であり、商業の学びを活かした大学進学や就職で実績を残した。自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成するため 1、2 学年の進路ガイダンスを充実させた。	進学は、将来の職業を意識した学科等の選択を促進する。就職は、面接試験での対話力が求められているため、表現力、コミュニケーション能力を育成する。
生徒指導	頭髮・服装・登校指導を定例で行い、基本的生活習慣の確立に努めている。ここ数年、多様な悩みを抱える生徒が増えている。いじめや問題行動等の未然防止と早期発見のためにも、組織的に支援する体制の強化が求められている。	全職員による指導を継続し、信頼関係の構築に努める。校内の生徒指導・支援体制を構築し、SC、SSW 等の専門家を積極的、効果的に活用する。
特別活動	ライブ配信などを取り入れながら学校行事を実施・運営して授業時間を確保している。家族限定公開となったが、6 年ぶりに文化祭の一般公開ができた。学校行事は、生徒会が中心となるが、常態的に全校生徒の意見を吸い上げるシステムが必要である。	生徒個々が自己有用感や自己肯定感を持てる場面づくりを創出する。キャリアパスポートを活用し、生徒のキャリア形成を促進する。
安全・安心な環境作り	安全・安心な教育環境を維持するための取組を積極的に実施している。働き方改革においては、定時退勤日・完全退勤時間の設定、時差出勤制度の活用等で、勤務時間を意識した働き方改革の浸透に努めている。令和 5 年度の時間外在校時間の月平均時間は 28 時間 05 分、月平均 45 時間超過者割合は 20.6%、月平均 80 時間超過者割合は 1.3% であり、月平均時間と月平均 45 時間超過者の割合は県平均を上回っている。	安全・安心な環境作りのために、迅速かつ組織的に対応する。働き方改革として、業務の軽量化、役割分担の平準化を図るなどの取組を推進する。教職員一人一人が、これまでの働き方を見直し、心身の健康保持を実現する。

5 中期的目標

- ・多様な進路希望に対応し、時代のニーズに応じた教育課程を編成し、確かな学力を養成する。
- ・3年間を見越して組織的・系統的かつ実践的なキャリア教育を行い、生徒の進路意欲を引き出し、目標を実現する。
- ・個人面談・教育相談体制を充実させ、生徒理解と信頼関係の醸成に努め、いじめ等の未然防止を図る。
- ・全職員による生徒指導を通して、基本的生活習慣の定着と規範意識の高揚及び自己指導能力を育成する。
- ・特別活動の充実を通して、主体性・自律性を育むとともに豊かな人間性を育成する。
- ・教職員の働き方改革を進め、時間外在校等時間における年間の「月平均時間」20 時間以内を実現する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を育む。	① 学習指導の RPDCA サイクルを確立し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。 ② 生徒による授業アンケートの全項目で授業満足度平均値 3.5 超過を実現する。 ③ 資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。 ④ 学習場面に応じた ICT 活用を推進する。
2 規範意識を醸成し、基本的生活習慣を確立する。	① 様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ② 面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を構築する。
3 組織的・系統的なキャリア教育を推進する。	① キャリア教育を推進し、進路意識の高揚と目標実現のための実践力を育成する。 ② 実習などの体験的な学習を通して、協力・協働していく力を育成する。
4 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む。	① 特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ② 生徒会活動、部活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。
5 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。	① 中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。 ② 学校通信、ホームページ、学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。
6 安全で安心な教育環境作りを目指すとともに、教職員の働き方改革を推進する。	① 生徒・職員の健康と安心安全に資する教育環境作りを図る。 ② 勤怠管理支援システムを活用して、自らの働き方を見直し改善する。